

インタビュー 東京税関・大坪政悦成田航空貨物出張所長

「第2の開港」へ最適な検査体制を

東京税関の大坪政悦成田航空貨物出張所長はこのほど本紙インタビューで、成田国際空港の「第2の開港プロジェクト」について、「検査・取り締まりの高度化を目指し、輸入貨物の動線に調和した税関設備の配置および検査プロセスについて検討していきたい」と述べた。2029年3月末のB滑走路延伸とC滑走路新設時の空港内外の貨物体制も踏まえながら、最新技術の活用も含めて検討を進めていく。

(文中敬称略、聞き手・井上昭憲)



——7月1日付で成田航空貨物出張所長に就任した。改めて就任の抱負を。

大坪 成田航空貨物出張所が管轄する成田空港は、わが国最大の国際航空貨物取扱量を誇るとともに、海港も含めた貿易額の総額が全国第一位を記録しており、日本の経済活動を支える極めて重要な拠点だ。

今年10月には第7次NACCS更改が予定されており、輸入申告項目の追加や海上小口貨物に係る簡易通関制度の導入など、実務に直結する制度変更が控えている。また、越境eコマース(EC)の拡大に伴い輸入申告件数は急増している。不正薬物や知的財産侵害物品の摘発、さらには国際的な制裁措置に関連する不正輸出への対応など、税関を取り巻く環境は日々、大きく変化している。このような状況の中、成田航空貨物出張所長としての重責を改めて痛感しており、身の引き締まる思いだ。

関係事業者の皆様との積極的な対話を通じて、業界のニーズや物流動向を的確に把握し、税関の使命である「安全・安心な社会の実現」、「適正かつ公平な関税などの徴収」、「貿易の円滑化」の3本柱の実現に向け、職員一丸となって取り組んでいく。

——成田空港の「第2の開港プロジェクト」を踏まえた対応状況や検討

の課題について。

大坪 足元では特に最適な検査体制についての検討を進めている。昨年7月に成田国際空港会社(NAA)がまとめた「新しい成田空港」構想2.0によると、最高水準の物流効率性を追求する方針が示されている。これに対応する形で、税関でも、検査・取り締まりの高度化を目指し、輸入貨物の動線に調和した税関設備の配置および検査プロセスについて検討していきたい。また、空港内に限らず、周辺地域で開発が進められている物流施設については情報収集しており、内容によっては、東京税関全体、さらには、関税局を含めた継続的な議論が必要だ。今後も「第2の開港プロジェクト」の全体および将来を見据えて、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進や最先端検査設備の導入など、税関行政の効果的かつ効率的な在り方について検討していく。

一方、29年3月末までのB滑走路延伸とC滑走路新設が予定されており、供用時の年間発着容量は、現在の30万回、25年冬季スケジュールの34万回から50万回を目指すことをNAAは公表している。成田空港の貨物量の増加が見込まれるため、より一層、関係業界と連携し、物流動向の情報収集に努めるとともに、効

果的な人員配置などを含め、種々、検討していきたいと考えている。

——スマート税関構想での取り組みや新技術のトライアルについて。

大坪 現在、ペーパーレス化の推進を目的として導入した検査機器について、その活用範囲の拡大に向けた検証を進めている。また、遠隔地にいる職員同士がリアルタイムで連携しながら検査対応を行う手法については、これまでのスマートグラスからスマートフォンへの機器の切り替えを含め、より効果的な機器の導入を検討している。これらの取組はスマート税関構想でのこれまでの検討・実施状況を踏まえたものでもある。今後もさらなる改善とスマート税関構想の実現に向けて、継続的に取り組んでいく。また、「第2の開港プロジェクト」の趣旨を踏まえ、関係事業者の皆様と連携しつつ、先端技術を活用した機器の導入や検査工程のオートメーション化の推進についても積極的に検討していきたい。

こうした「第2の開港プロジェクト」やDXについての検討や調整は、従来、総務課が担当していた。ただ、業務負担が大きいこともあり昨年7月に企画調整部門を設置し、本関の企

国際物流業界トピックス

画調整室と連携しながら進める体制としている。成田航空貨物出張所は現在、2課30部門で成田空港の税関業務の中核を担っている。

——キャリアで印象に残る仕事は。

大坪 社会人として初めて配属された「海の実務業務」だ。厳格な上下関係のもとで勤務しながら、業務の基本に加え、社会人としての姿勢や常識を学ぶ貴重な経験となった。船舶の入港尋問、船内検査、陸上巡回などの監視・実務業務に加え、携帯品検査や徴税など税関業務の基礎を

幅広く習得した。これらの業務を通じて、現場での判断力や対応力を養うことができた。当時の先輩とは現在も変わらぬ関係が続いている。当直勤務では寝食を共にし、勤務明けには班の仲間と余暇を過ごした。家族のような絆の中で業務に従事していたことは、今でも心に残る大切な思い出だ。

趣味は家族と共に美味しい食事を楽しむことや旅行に出かけることだ。特に八ヶ岳は毎年訪れているお気に入りの場所だ。雄大な自然と澄んだ

空気の中で過ごす時間は、日常の喧騒を忘れさせてくれる特別なひと時だ。家族との絆を深める貴重な機会であり、私自身の心身のリフレッシュにもつながっている。

【略歴】（おおつぼ・せいえつ）1985年4月東京税関入関。東京税関監視部、大井出張所、業務部管理課、総務部総務課などを経て2012年7月沖縄地区税関出向、19年7月東京税関酒田税関支署長、24年7月成田航空貨物出張所次長、25年7月から現職。